

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先(那覇市医師会 事務局:前泊・上原 / 電話 098-868-7579)

-記.....
- ◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。(取扱注意でお願いいたします。) 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【現状】

沖縄県では、先週(5/3-5/9)の新規陽性者数は453人(前週515人)でした。沖縄本島(周辺離島を含む)における週あたりの実効再生産数(R)は0.79(95%CrI:0.72, 0.87)であり、前週の0.80から横ばいです(図1)。ただし、先週は、連休中で受診できる医療機関が限られていることから、診断される陽性者数が少なかったと考えられます。

世代別では、20代が最多で123人(15%)であり、前週の101人よりも増加しています。ふたたび若者における流行が戻ってきている可能性があります。65歳以上の高齢者77人(17%)と前回と同数でした。全体に占める割合は上昇しています。75歳以上の高齢者は44人(10%)で、うち33人が高齢者施設における感染でした(図3)。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数(北部、中部、南部)

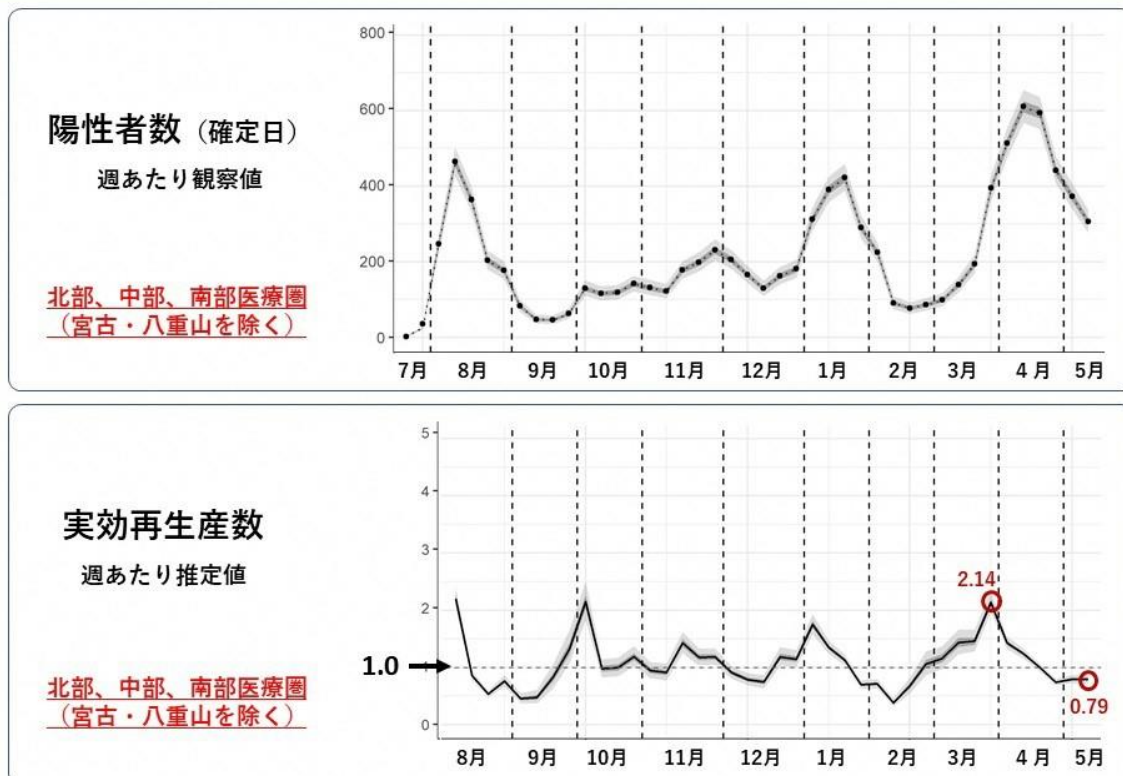
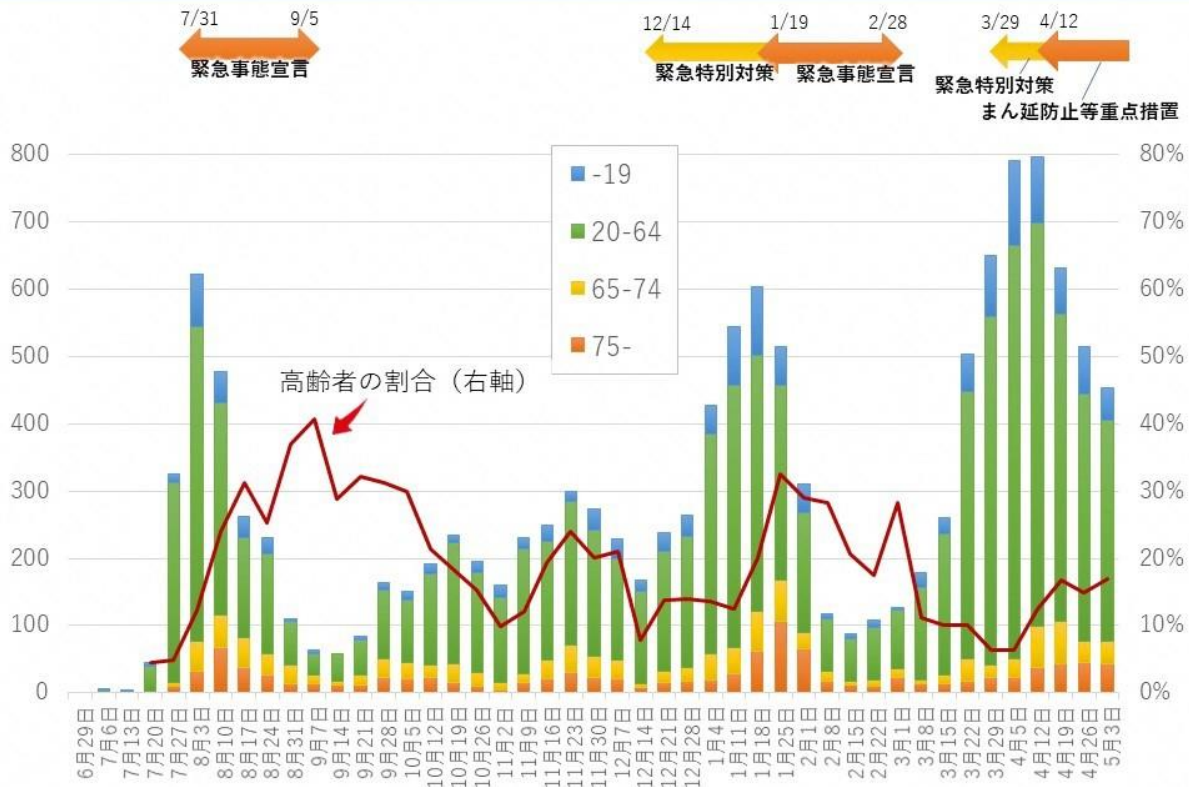


図3 年齢階級別陽性者数の推移（週あたり／沖縄県）



医療圏別では、北部 12 人（前週 29 人）、中部 121 人（前週 112 人）、南部 125 人（前週 167 人）、那覇市 140 人（前週 155 人）、宮古 21 人（前週 47 人）、八重山 24 人（前週 1 人）でした。県外からの渡航者は 7 人で、その内訳は、東京都 3 人、大阪府 2 人、北海道 1 人、岩手県 1 人でした。

市町村別では、多い順に、那覇市 140 人（前週 155 人）、金武町 38 人（前週 0 人）、うるま市 30 人（前週 35 人）、豊見城市 29 人（前週 27 人）、宜野湾市 26 人（15 人）でした。金武町、石垣市で増加が顕著ですが、やはり那覇市に陽性者が集中しています。また、4 つの小規模離島で発生が重なっています。

先週、変異ウイルス（N501Y）を同定する検査が実施されたのは 147 検体（前週 176 検体）で、このうち 87 検体（前週 99 検体）が N501Y 陽性で、陽性率 59%（前週 56%）とわずかに上昇しています。医療圏別では、宮古に多く、南部でも増加しています。急増している石垣市については、まだ 1 検体しか調べられておらず、陰性でしたが、さらなる評価が必要です。

先週末（5 月 9 日）の入院患者は 249 人（5 月 2 日 275 人）でした。このうち、酸素投与など中等症患者 193 人（5 月 2 日 194 人）、気管挿管など重症患者 10 人（5 月 2 日 8 人）でした。入院患者は減少していますが、中等症以上の患者数には変化がありません。

【推定】

本土からの持ち込みが増えることで、変異ウイルスへの置き換わりが加速することが考えられます。小児の感染事例は増加していませんが、もっぱら軽症または無症状であるため、受診していない感染者が多いと考えられます。このため、すでに潜在的に感染が拡大している可能性もあります。

今週（5/10-5/16）の新規陽性者数は 400-600 人と推定します。大型連休の影響が読めないため、推定の幅を大きくとっています。今週末の入院患者数は 220-260 人と変化はありません。このうち気管挿管等が行われる重症患者数は 10-12 人と見込まれます。ただし、高齢者施設における集団感染が重なった場合には、これらを大きく上回る可能性があります。

【解説】

大型連休には、10万人以上の観光客が沖縄県を訪れました。一方、年末年始とは異なり、帰省客は少なかったものと考えられます。今後、どの程度の流行が県内で生じるか（あるいは生じないか）により、観光が及ぼす影響が明らかになってくると考えられます。

観光客と県民との接点が多く、ふたたび感染が拡大してくるとすれば、まずは若者を中心に拡がるものと考えられます。渡航者との会食があったという方は、その日から14日間は高齢者との接触を控えてください。とくに、一緒に食事をしないようにしてください。

新規陽性者数は減っていますが、中等症以上で入院している患者数は高止まりしています。このまま次の流行が生じた場合には、深刻な医療ひっ迫に直面する可能性があります。必要な救急医療が提供できなくなり、新型コロナに限らず入院待ちの患者が多発しかねません。

従来ウイルスであれ、変異ウイルスであれ、感染拡大を防ぐ方法は単純であり、かつ明らかです。以下の基本事項を守っていくことで、多くの命が守られます。皆様のご協力をお願いいたします。

- 1) 人が集まる場所に入るときは、マスクを着用する。
- 2) 公共のモノに触れたときは、手を洗うか消毒する。
- 3) 食事は、同居する家族など固定された親しい人に限定する。
- 4) 高齢者のいる世帯を訪問したり、食事をしないようにする。
- 5) 発熱などの症状を認めるときは、外出を極力自粛する。

加えて、高齢者や高齢者と同居されている方、ケアに関わっておられる方、あるいは集団生活されている方については、とくに症状を認めたときは、早めに新型コロナの検査を実施している医療機関を受診するようにしてください。

なお、4月以降、医療機関における集団感染が1件のみと抑えられています。第2波、第3波では、医療従事者の感染により救急や病棟を閉鎖することが多発しましたが、第4波では認めなくなってきています。医療従事者へのワクチン接種が、医療ひっ迫の回避に貢献している可能性があります。

すでに高齢者へのワクチン接種が始まっていますが、7割以上の接種率を達成することができれば、重症化する患者が減少するばかりか、高齢者施設やデイサービスにおける集団免疫も期待できると考えられます。ぜひ、市町村による接種推進に協力をお願いします。

とくに、独居もしくは高齢者のみの世帯では、役場からの郵便物に気づけないことも考えられます。また、予約の電話などができないかもしれません。親族や近隣の住民の方は、そうした高齢者がワクチン接種の機会を逃すことのないよう、サポートをお願いします。

以上です。